

平成28年度 子どもゆめ体験



長崎市文化観光部国際課

目 次

子どもゆめ体験事業概要	1
現地研修日程	2
事前研修内容	3~4
参加者一覧	5~6
思い出の一コマ	7~15
ゆめ体験に参加しての感想（参加者）	16~29
アンケート結果	30~34
あとがき - ゆめ体験に参加しての感想（引率職員）	35~36
おまけ - ちょこっとオランダ語	37

＜平成28年度子どもゆめ体験 事業概要＞

1 主催

長崎市

2 目的

次世代を担う長崎の子どもたちを姉妹都市・市民友好都市等に派遣し、現地の人々との交流を通じて「個性輝く世界都市」としての人的ネットワークを拡大するとともに、文化・習慣などを肌で感じるにより、国際性を有する人材の育成を図る。

3 日程

(1) 結団式、参加者・保護者説明会

7月3日(日)

(2) 事前研修会

7月21日(木)、7月29日(金)、8月12日(水)

(3) 現地研修

8月18日(木)～26日(金) 7泊9日

(4) 事後研修会

9月17日(土)、10月15日(土)

(5) 研修成果の発表など

ア あじさいイングリッシュスピーチコンテスト 11月5日(土)

イ ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ 12月3日(土)

4 参加者

長崎市内在住の中学生16人

5 引率職員

3人(長崎市国際課職員2人、長崎市教職員1人)

＜平成28年度子どもゆめ体験 現地研修日程＞

日次	月日	曜日	都市	日本時間	現地時間	交通機関	スケジュール 〈宿泊地〉	
1	8月18日	木	長崎	6:30		専用車	長崎市役所出発	
			福岡	8:30			福岡空港着	
				10:30		KE788	福岡空港発	
			仁川		11:55			仁川空港着
					14:45		KE925	仁川空港発
			アムステルダム		18:55			スキポール空港着
					専用車	ホテル着 〈ライデン泊〉		
2	8月19日	金	ライデン		8:40		ホテル発	
					9:00		ライデン市役所表敬訪問	
			ライデン		10:30		シーボルトハウス視察	
					12:00		国立民族博物館視察	
					14:00		交流事業	
					16:00		ホストファミリーとの対面式 〈ホームステイ〉	
3	8月20日	土	ライデン				ホストファミリーとの交流 〈ホームステイ〉	
4	8月21日	日	ライデン				ホストファミリーとの交流 〈ホームステイ〉	
5	8月22日	月	ライデン		7:50		ホストファミリーとの解散式 (スキポール空港)	
					9:40		スキポール空港発	
					11:10	KL1927	ジュネーブ空港着	
					14:00		専用車	国連欧州本部表敬訪問
					15:00			市内見学
					17:00		専用車	軍縮会議日本政府代表部表敬訪問 〈ジュネーブ泊〉
6	8月23日	火	ジュネーブ		9:00	専用車	ホテル発	
					10:00		軍縮会議傍聴	
					11:30		国連欧州本部見学	
					13:00		赤十字国際委員会レストランで昼食	
					14:00		赤十字国際委員会表敬訪問・見学	
					16:00		専用車	国連難民高等弁務官事務所表敬訪問
		18:00			ホテル着 〈ジュネーブ泊〉			
7	8月24日	水	ジュネーブ		8:00	専用車	ホテル発	
			シャモニー		9:30		シャモニー視察(エギューユ・デュ・ミディ展望台を行程に含む)	
					15:15		専用車	ジュネーブ空港着
			ジュネーブ		17:15	KL1932	ジュネーブ空港発	
			アムステルダム		18:55			スキポール空港着
					20:00			ホテル着 〈アムステルダム泊〉
8	8月25日	木	アムステルダム		9:00	専用車	ホテル発	
					9:30		ゼーンセスカンス着(風車村)	
					10:00		ゼーンセスカンス発	
					10:30		国立美術館視察	
					14:00		運河クルーズ(1h)	
					15:30		アンネフランク博物館	
					17:00		夕食	
			アムステルダム		21:20	KE926	スキポール空港発 〈機内泊〉	
9	8月26日	金	仁川		15:05		仁川空港着	
					18:35		KE781	仁川空港発
			福岡		19:55			福岡空港着
			長崎		22:30		専用車	長崎市役所到着、解散

＜平成28年度子どもゆめ体験 事前研修内容＞

第1回：7月21日（木）13：30～16：30

（敬称略）

No.	内容	講師
1	班分け・自己紹介	国際課
2	オランダ・ライデンの紹介	国際課 ジェシカ・ヒルホースト
3	オランダ語講座	ジェシカ・ヒルホースト、ロナルド・ヒルホースト、 ライデン大学留学生のみなさん
4	オランダと出島	出島復元整備室長 馬見塚 純治
5	役割分担の決定	国際課



第2回：7月29日（金）13：30～16：00

No.	内容	講師
1	平和な世界の構築に向けて	平和推進課 大塚 研吾
2	高校生平和大使の取組み	高校生平和大使 活水高校2年生 小川 日菜子
3	訪問先学習	国際課
4	ホームステイについて	国際課
5	参加者同士の交流会	国際課



第3回：8月12日（木）13：30～16：30

No.	内容	講師
1	英会話講座（飛行機・ホームステイ編）	国際交流員 ゴンザルベズ ヘスース 長崎市ALT 3名
2	英会話講座（買い物編）	国際交流員 ゴンザルベズ ヘスース 長崎市ALT 3名
3	英会話講座（長崎の紹介編）	国際交流員 ゴンザルベズ ヘスース 長崎市ALT 3名
4	スピーチの練習	国際交流員 ゴンザルベズ ヘスース 長崎市ALT 3名
5	出発に向けての最終確認	国際課
6	現地研修に向けて	国際課長 前田 孝志



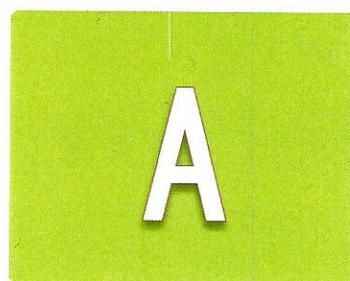
<参加者一覧>



岩屋中学校
小段 柗人



長崎大学教育学部
附属中学校
銭坪 生真



長崎東中学校
浦野 あおい



青雲中学校
富地 ののか



西泊中学校
坂本 ころろ



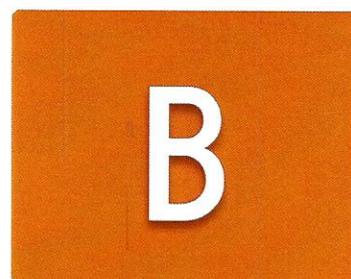
西浦上中学校
田上 愛規



東長崎中学校
本田 礼人



長崎東中学校
東原 拓哉



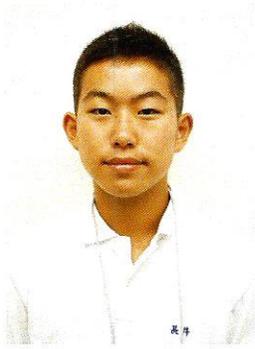
桜馬場中学校
渡部 日菜子



長崎大学教育学部
附属中学校
掛屋 美律



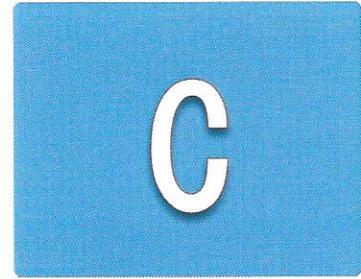
西浦上中学校
松尾 花



三重中学校
長井 琢武



青雲中学校
劉 大地



西浦上中学校
渋谷 美咲



長崎東中学校
中田 夏鈴

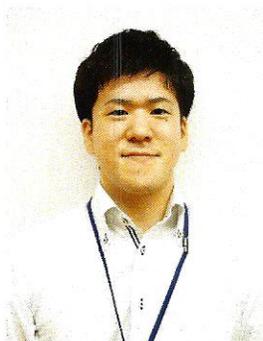


長崎大学教育学部
附属中学校
渡部 真衣

国際課
羽佐古 潤二郎



国際課
林田 聖大



横尾中学校
太田 晶子



日本旅行
吉田 新子さん



引率 職員

～ 思い出の一コマ ～

結団式



事前研修



現地研修1日目 長崎出発～オランダ着



現地研修2日目



ライデン市役所～シーボルトハウス



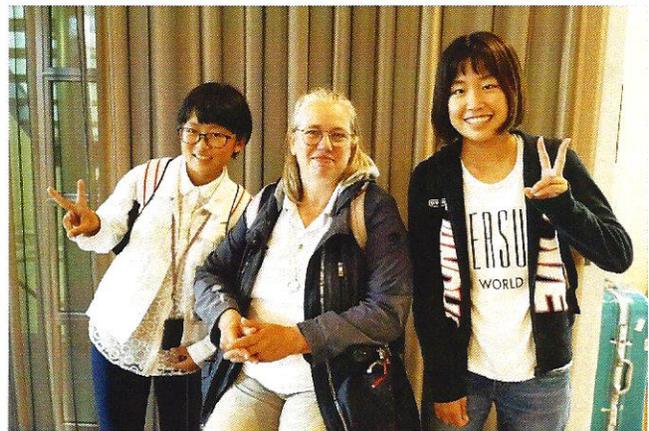
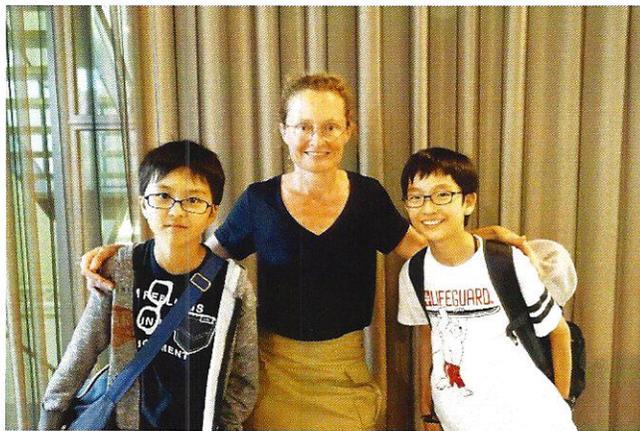
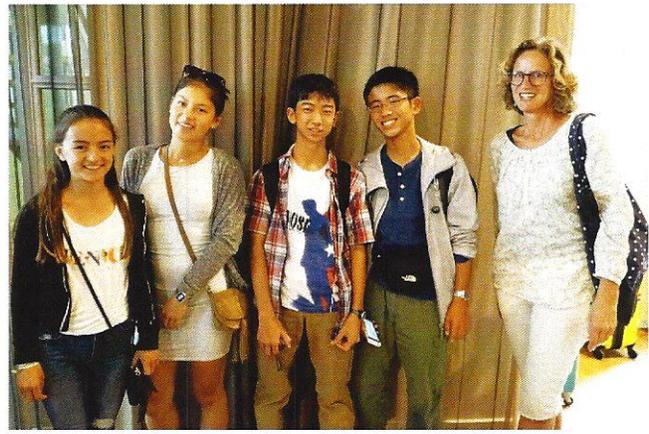
国立民族学博物館～交流事業



ホストファミリーとの対面式



ホストファミリー



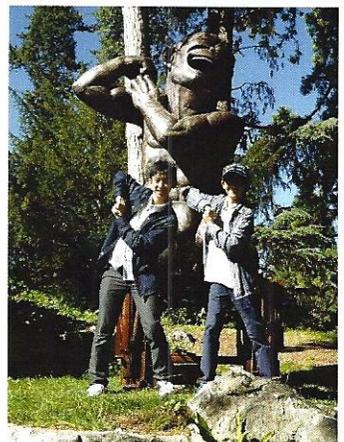
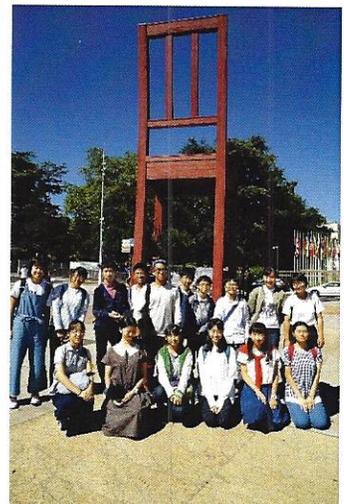
現地研修3日～4日目 ホームステイのーコマ



現地研修5日目 ホストファミリーとの別れ



スイス～国連欧州本部訪問・ジュネーブ市内散策



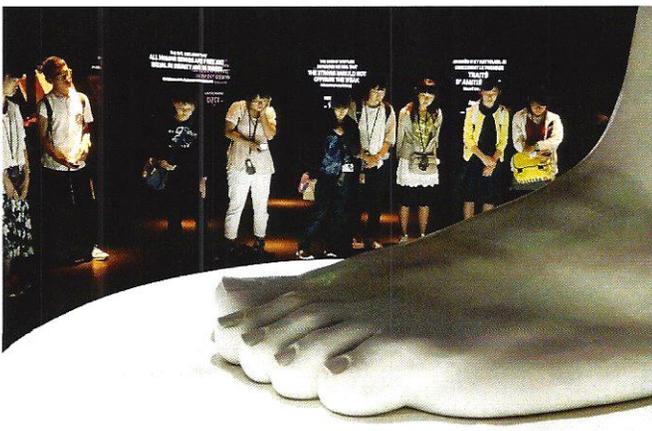
軍縮会議日本政府代表部 訪問



現地研修6日目 国連欧州本部訪問



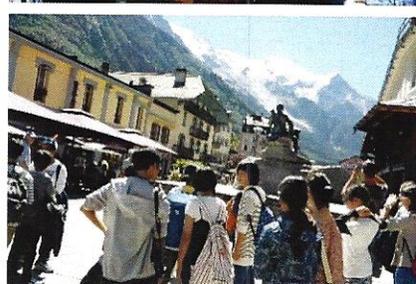
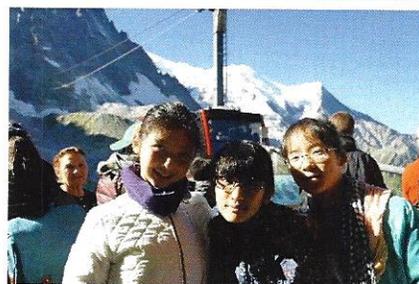
赤十字国際委員会(ICRC)訪問・見学



国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 訪問



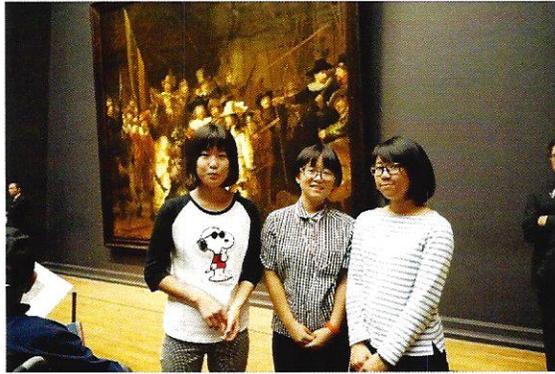
現地研修7日目 フランス～シャモニー



現地研修8日目 オランダ～ゼーンセスカンス



国立美術館・運河クルーズ・アンネの家(の前)



現地研修
最終日
～帰国～



事後研修



成果発表(3年生) ～あじさい English Speech Contest～



成果発表(2年生) ～ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ～



<ゆめ体験に参加しての感想>

◆長崎東中学校3年 浦野 あおい◆

私にとって「子どもゆめ体験」は、人生初の海外渡航でした。家族と離れ、15人の仲間と共に上手くやっていけるのか、自分の英会話力で現地の人々とコミュニケーションがとれるのか。飛行機を降り、初めて海外の地に立ったとき、そのような不安が頭から離れませんでした。仲間と打ち解けていくにつれ、不安な気持ちも徐々に期待に変化していきました。こうして幕を開けた約1週間の現地研修は、その全てが新鮮で、多忙ながらも本当に充実した日々でした。

研修中、日本ではできない様々な体験をしたことで、自分の中に変化を感じることが幾度となくありました。そのきっかけの1つは、ホームステイです。3泊という短い期間でしたが、その間に得たものは多く、数々の貴重な体験ができました。会話をするときには、言いたいことを英訳するのに時間がかかったうえに、通じるかも心配で、話し出すのにとても勇気が必要でした。英語での会話を重ね、私は、相手の話を理解したり、ジェスチャーを交えながらも自分の思いや感情を伝えたりできたときの喜びを知りました。しかし、反省点もあります。相手の話すスピードが速すぎて聞き取れなかった時に笑ってごまかしてしまったことや、日本語を話せる家族の人に頼ってしまった部分があったことです。途中、もし英語が話せて、もっとたくさん外国人と会話ができたら、どんなに楽しいだろうかと考えました。ホームステイでは、自分の英会話力の現状を知り、今後も熱心に英語を学び、上達させたいと心から思うようになりました。

その他に、赤十字や国連に関する国際機関の訪問も変化のたねになりました。どの機関もすごく魅力的で、訪問するごとにそこで働きたいと思ってしまうほどでした。働いている方からは、弱い立場にある人々を救いたいという強い思いがひしひしと伝わり、尊敬の念を抱きました。またそれは、世界へ飛び出し、世界中の人々と共に仕事をするにもものすごく興味をもった瞬間でもありました。私は、医療関係の仕事に就くという夢を持っていますが、将来どのような職業に就くとしても、外国で働くか、外国と関わる仕事がしたいと思っています。

現地研修で、私の考え方や物の見方は180度変わったように思います。世界にまで大きく視野が広がったことで、英語に対する意欲が向上し、漠然としか考えられていなかった将来についても夢がふくらみました。研修への参加を後押ししてくれた家族、計画や引率をしてくださった先生、国際課のみなさん、そして一緒に研修をおくった仲間など研修を支えてくださった方々に心から感謝しています。この研修で数多くの最高の思い出ができ、自分自身も一回り成長することができました。ここで学んだことや感じたこと、考えたことは必ず今後の人生において大きな糧となると思います。「子どもゆめ体験」への参加を励みに、勉学により一層打ち込み、将来の夢を明確にしていきたいです。



◆西浦上中学校3年 渋谷 美咲◆

私はこの研修で貴重な体験をさせていただきました。行く前は、楽しみという気持ちでいっぱいでしたが、日が近づくにつれ、自分の英語が伝わるか、一緒に行く人と仲良くできるか、現地の方と会話できるか、などといった不安と緊張がでてきました。ですが実際、研修を終えてその不安はなくなりとても充実した研修になりました。

私が特に印象に残ったのが、国連欧州本部や軍縮会議、赤十字国際委員会、国連難民高等弁務官事務所などの国際機関へ行くことが出来たことです。普段は絶対に行くことが出来ないのもとても貴重な体験になりました。軍縮会議でわずか20分しか話さないところが驚きました。また、世界の現状を改めて知り、核兵器をなくしていかなければならないと思いました。そして、私は将来、世界で活躍できるような人になりたいと思いました。

私は、シャモニーのエギューユ・デュ・ミディ展望台から見る景色が最高にきれいでした。一気に富士山よりも高いところへロープウェイで行けることに驚きました。気圧のせいで階段をのぼると、とても息が荒くなってしまいました。きつかったです。頂上には、下がガラスで景色が見れる場所がありました。そこにのると、まるで浮いているような感覚になり、とても怖かったです。

また、ホームステイや、ライデン市の学生とも交流ができ、オランダの文化を見ることができました。ライデン市の学生は英語もペラペラしゃべっていて、すごいと思いました。同じ年なのに背も、ずっと高くて憧れました。ライデン市の学生は長崎を知らなかったです。だから、カステラを絵に描いて紹介しました。とても興味を持っていました。嬉しかったです。



ホームステイでは、たくさんの観光スポットへ連れて行って下さり、オランダが大好きになりました。また、本場のチーズを食べてみました。においはきつかったですが、味は日本と違い、ずっと食べる事が出来るくらいおいしかったです。

今回この研修へ参加して、これからは、もっと勉強して、外国で働きたいと思いました。そして、この体験をいかして自分から国際交流のイベントや行事に参加しようと思います。また、長崎のことも知って、外国に発信していこうと思います。

◆青雲中学校3年 富地 ののか◆

私はこの研修を終えて、自分が一番変わった所は、以前と比べて他人との交流を積極的にできるようになった所だと思います。ホームステイで、英語しか通じないホストファミリーとコミュニケーションをとるために、身振り手振りを交えながら自分の意思を伝えようとしなければならない状況にあったおかげかなと思っています。あまり人と接するのが上手い方ではなかったのですが、そんな自分を変えたいと思ってこの研修に参加したので、普段よりも積極的に交流ができました。

ホームステイなど、ホストファミリーや研修先で出会った人々との交流を通して私

は、人と接するときが一番重要なのは積極性なのだ、と学ぶことができました。少し話しかけるのをためらってしまっても、思い切って話をしてみるとかなり多くの発見がありました。うまく言葉にできなかったとしても、こちらが一生懸命に話す姿勢を見せれば、向こうも耳を傾けて意図を汲もうとしてくれるので、コミュニケーションは十分とることができ、とても楽しかったです。頭の中で話す事を考えすぎて黙ってしまうより、多少詰まっても相手に話しかけてみる、という姿勢が大切だと学ぶことができ、とても良い経験になりました。



また、国際機関への訪問・見学をしたことで、具体的な将来の目標ができました。私は以前から医師になりたいとっていて、特に国境なき医師団や赤十字の活動に興味を持っていましたが、今まではただ漠然としたイメージしか持っておらず、憧れ程度でした。ですが、今回の研修で国連、軍縮会議、赤十字、UNHCRと見学・訪問をすることで、国際的な機関で働くことの魅力や社会へ貢献できることの素晴らしさを知ることができ、今までの曖昧だった夢を、具体的なイメージと目標に変えることができました。

国連では国際会議の会議室や建物内の見学、そして軍縮部の方からのお話を聞いて、国際機関の活動に関して学ぶことができ、また実際に軍縮会議を傍聴し、会議終了後も外で話し合いを続けている各国の代表の方々を見て、軍縮への思いも知ることができました。

赤十字やUNHCRでは、捕虜や難民など、助けを求めている人々への支援活動を行っていることや、その大切さを改めて知ることができました。私は、国際機関で働きたい、とこの研修で強く思い、将来は赤十字に勤めたいと思うようになりました。

子どもゆめ体験という事業を通して、私は普通中学生ではなかなか出来ない経験をすることができました。一緒に研修をした仲間や関わってくださった方々に感謝をしながら、ここで学んだことを目標実現のために活かしていきたいです。

◆三重中学校3年 長井 琢武◆

この研修に参加してみて、一番の収穫は「英語をもっと学びたい」と思ったことです。参加する前は、英語は苦手な教科であったため、どちらかというと嫌いでした。ですが研修に参加して、ホストファミリーの子どもたちと仲良くなって「もっと会話したい」「なんて言っているのか理解したい」このような感情が3日間心にずっと居座っていました。だから、日本に帰ったら英語を勉強して、英語がペラペラになって、またオランダに行きたいです。

自分の一番行きたかったUNHCRでは、ネットなどでは見ることができない職員の考え方など貴重な話をしていただきました。そこで自分が考えていたものと職員の過酷さを知り、あまりにも自分がこの仕事を甘くみていたことがよく分かりました。そして、この仕事が自分に合っているのか考え、自分に合っていないような気がしてきて、ある意味自分の将来を考えることへの刺激を受けました。



UNHCRより刺激を受けたのが、実はあります。国連の表敬訪問での国連の仕事内容など詳しく聞いて、「この仕事おもしろい」「やりがいがある」などの期待の感情が生まれました。文化や思想が違う中で、「目標」に向かって助け合い、時にはぶつかり合い、譲り合う中で、国際社会が成り立っているんだなと思うことができ、もっとこの仕事について

知りたいなどの探求心も芽生えました。このような国際機関に行って、「人を助けたい」「人と人とをつなぐ人間になりたい」と以前より強く思うようになりました。そして「世界に轟く！」。

オランダの街並みや空気の美味しさ、運河の近くを自転車でこぐ気持ちよさ、人の温かさ、スイスでの各国際機関での思想の違い、助け合うことの強力さ、国際社会の難しさ、フランスのシャモニーからの絶景、全ての事が初めてで、全てが貴重な体験で、向こうで過ごした一分一秒が私の人生の宝物となりました。そして、日本にいただけでは気付くことができない、日本の技術の素晴らしさ、日本の優しさに気付くことができました。この経験は、私のこれからの生活に必ず活かします。そして、10年後には日本の、いや、世界に轟く人物となりますので、期待しておいてください。

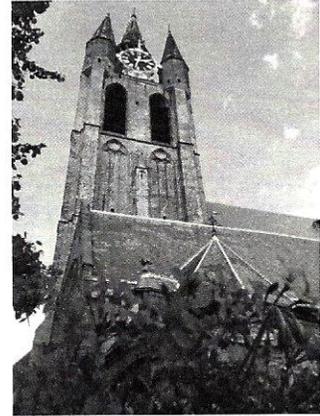
◆長崎東中学校3年 中田 夏鈴◆

今回のオランダ・スイスでの研修は私にとってまさに夢、体験でした。私は小さい頃から絵を描くのも見るのも大好きでした。そして、次第にデザインに興味を持つようになっていきました。ある日、私はテレビの生中継でオリンピックの開会式を見ました。各国の選手が自分の国を象徴するデザインの衣装を身につけて入場してきます。その中で、私がとても衝撃を受けたデザインがあります。それがヨーロッパの国々のデザインでした。そのデザインはあまり主張性がなく地味に見えるのですが、細かいところで色のバランスがとれていました。厚かましいデザインではなく、シンプルなのです。しかし、そのシンプルさが、人々を魅了します。私は不思議に思いました。「何故、あんなにシンプルなのに、人々を魅了するのだろうか、こんなに素晴らしいデザインを生み出すヨーロッパとはどんな場所なのだろうか」私はヨーロッパのデザインを好きになっていたのです。そんな中、今回の研修に参加することができました。長いフライトを終え、ヨーロッパに到着したときは、もちろん疲れもたまっていました。しかし、ずっと夢見ていたヨーロッパ、オランダに来ることができたことによりかなり興奮しました。そして、オランダ・スイスのデザイン性の高さをこれからしっかり感じようと、そこから決心しました。

この研修では3日間、ホームステイがありました。最初は本当に緊張していました。上手に英語で話せるのだろうか、なじめるのだろうか、不安だらけでした。しかし、ホストファミリーに会った時、不安はどこかに消えてしまいました。ホストファミリーは本当に優しい方で、私に合わせてゆっくり話してくれました。スーパーに買い物に行った時も、私が不思議に思って手にとったものは、家に帰るとすべて買ってあり、驚きま

した。笑顔で「何でも試してみる事が大事」と言ってくれました。私はオランダ・スイスのデザインを感じる目的でこの研修に参加したのですが、このホームステイでオランダの人々の温かさ、優しさに触れることができ、嬉しかったです。

ホームステイ後の国連や赤十字では、貴重なお話を聞くことができました。また、それらの施設の建物からはやはりデザイン性の高さが感じられました。日本だと、国際機関の建物は、地味な配色、デザインで建てられています。しかし、スイスは違いました。真っ白な建物だったり、一部に赤が含まれていたり、本当に素晴らしいデザインの建物ばかりでした。これは国際機関に限られた話ではありません。町自体のデザイン性が高いのです。私はオランダのデザインが特に好きでした。国の中心的な場所は伝統的なレンガ造りの建物ばかりなのですが、少し車を走らせると、また違ったデザインの建物が見えてくるのです。レンガ造りとは全く違う、近代的な建物ばかりでした。オランダにいるのに2つの国にいるような変な感じでした。でも、またそこが魅力的で、私はオランダが大好きになりました。



今回の研修は本当に私の人生の中の宝物になりました。私はたくさんの人々にお世話になりました。心からお礼が言いたいです。

「私の心に、身体に、夢を体験させていただき、ありがとうございました。」

◆東長崎中学校3年 本田 礼人◆

私は、この子どもゆめ体験の海外研修で多くのことを学ばせていただきました。

研修メンバーに選ばれたときは、大変嬉しくて、それからは胸躍る毎日でした。やってきた出発日当日、空港に着くまでには少しホームシック気味でした。しかし、空港に入ると、本当に海外に行くのだということが実感できて、ホームシックなんてすっかり忘れていました。

空港から出て、オランダの空気にふれると、胸が高まり、長時間のフライトでの疲れも無くなりました。ライデン市役所やシーボルトハウス、民族博物館を訪ねて、ライデンはレンブラントの出身地だったり、シーボルトは、大きい物をミニチュアにして集めたりすることなどたくさんを学びました。

そして、ホストファミリーとの生活は、とても楽しいものでした。クルーズ船に乗ったりサイクリングしたり、買い物に行ったり、冷たいプールで泳いだりと、とても充実した生活を過ごすことができ、オランダは、私の第二の故郷になりました。わずか3日という短い時間でしたが、長い間共に過ごした家族のような感じで、ホストファミリーとの別れは、大変つらく悲しいものでした。

ジュネーブでは、入ることすら貴重な国連やUNHCR、ICRC、軍縮会議日本政府代表部などに入り、戦争で親と生き別れになっている子どもたちがいることや、核をなくすことは難しいから、核兵器を作って増やさないように各国に呼びかけていることなどたくさんを聞き、世界平和の実現の難しさ、平和ではない国の現状などを知り、平和な世界を強く願いました。そして、日本という国はとても豊かな国だという



ことを感じました。

私は、日本人はとても信頼されているということがよく分かりました。例えば、スキポール空港の売店にいたトルコ人のおじちゃんと話をしたりなど、たくさんの人に話しかけられました。さらに、フランスの国境では、日本人はパスポートを見せることなく、顔パスで通れることには驚きました！

この体験は、私の一生の宝物です。

この子どもゆめ体験は、たくさんの人たちの協力のできたことなので、とても感謝しています。この研修で引率をしてくださった林田さん、羽佐古さん、太田先生、どんな時も手を貸してくださり、とても助かりました。ありがとうございました。

私は、この体験を通して、視野が広がり積極的になれました。そして、他の人達に伝えたいことができました。これからも、たくさん、いろいろな経験をしていきたいです。

◆桜馬場中学校3年 渡部 日菜子◆

私は今回の平成28年度子どもゆめ体験の現地研修が終わってから、やっと自分が外国に行ってきたんだという実感が湧いてきました。思い返してみると本当に夢のような体験でたくさんの貴重な経験をする事ができたと思います。

たくさんの訪問先のなかで私が一番印象に残っている思い出は、ホームステイです。楽しみの反面、不安ももちろんつきまわっていましたが、不安だったのは最初の間だけで、短い期間でしたが一緒に過ごしていくうちに少しずつ出発前の緊張も薄れていきました。ホストファミリーはとても優しい方達で簡単な単語とジェスチャーを合わせたような私の言葉に耳を傾けてくれて、笑顔でこたえてくれました。自分が思った事が相手に伝わったとき嬉しくて、日本で生活するうちはあまり意識していなかったコミュニケーション能力や英語が話せることの重要性に気付くことが出来ました。このことから文法など関係なく、相手に伝えたい、相手の考えていることを理解したいという気持ちがあれば外国に行っても想いを伝えることが出来るので、言葉の壁があっても乗り越えていけると思います。ホストファミリーといつかまた会う約束をしたので、将来語学力を身につけて私から会いに行きたいです。

現地研修ではホームステイ以外にも通常の旅行では味わえない体験ができました。英語が苦手な私でも子どもゆめ体験に参加したことで少しずつ英語を好きになることができました。そして、広い世界を見てきたことで外国に対する偏見が無くなり自分自身の持っている個性を大切にしていこうと思うことができました。私は今まで学校などの場所で周りの目を気にするばかりに自分を抑えて人に合わせる事が多くあり、そんな自分が嫌でした。しかし今回の経験から、自分に自信を持つことができたので他人からの評価より自分の心に正直に行動していこうと思います。子どもゆめ体験に参加することができて得たものを、これからの私の人生に活かしていきたいです。

◆長崎大学附属中学校2年 掛屋 美律◆

私は現地研修を終えて、オランダという街が印象に残っています。

街は、統一感があってキレイで、所々に日本語があって、日本とオランダの歴史を感じました。

そして1番は、オランダの方々の優しさに触れることができたことが思い出です。例えば、ライデン市役所の方々の出迎えやホストファミリーの方たち。会う方々みなさんが優しくて元気ですごく安心しました。

国連に行くことができたのもすごくいい思い出になりました。国連の社員の方に聞くことができた一つ一つのことは驚きがあって、国際機関ではこんなことを行っているのかと勉強になりました。このゆめ体験を通してたくさんのも、人に出会えたことに感謝しています。

長崎に帰ってきてから、オランダやスイスと比較するようになりました。比べてみて見つけたことは、ほぼ全てでした。これを考えると、場所が違えば気温も違うし、人も違う、暮らしも違うということです。

今後、この体験を活かして子どもなりに住みよい街にするためにはどうするかを考えて、発信したいと考えています。やっぱり、長崎（日本）の方がいいことと海外の方がいいことがあったので、身近な人にでも伝えていくということを努力していきたいです。

この研修に参加できて本当によかったです。ありがとうございました。



◆岩屋中学校2年 小段 柊人◆

まず、今回の旅は、自分にとって一生残る旅になりました。最初、出発の前日は興奮と緊張であまり眠れませんでした。しかしバスに乗るとそんなものはなくなり、みんなとの研修が始まったんだという安心感もありました。そして飛行機でアムステルダムまで着くと、日本とは別世界で、写真で見ると実際に見るのは、やっぱり違うと思いました。それから国際機関を見たり、ホームステイをしたり、街並みを見たりと無事に研修を終えることができました。

さて、僕は飛び立つ前、個人的な目標を立てていました。1つは異文化を感じることに、1つは英語、もう1つは人を助けるやりがいや、世界で人を救うことについて感じてくることでした。

異文化を感じることは多々ありました。大きいものは、靴を履いたまま家に入ることや、主食がパンということで、小さいことは、タイヤ味のグミを食べることで、僕の口には合いませんでしたが、オランダの人はよく食べると聞きました。日本の文化も外の人から見れば変な部分があったりして、そのような文化を知り合い、認め合うことも大切なんだと思いました。

英語は、本当に英語に囲まれていて、全部英語かオランダ語で、買い物するとき、お



すすめを聞くこともできなくて大変でした。しかし意外にも楽しくてよかったと思いました。あんなに英語に困まれたのは初めてだったので、最初は戸惑って大変でした。しかしいい経験になってよかったと思いました。

もう1つは人を助けるやりがいですが、やはり人それぞれでした。それぞれ自分で見つけていました。自分で見つけるからいいのだと思いました。そして、今回の研修で学んだことを、今後どう活かしていくか、それは、日本の中だけではなく、世界に目を向け、難民の問題や核の問題を見つめ、自分なりに知っていくべきだと思います。署名活動をしたり、募金をするだけでもいい、そうするだけで世界は変わっていくと信じます。それにつれて自分の考え方も変わりました。核の問題についても他人ごとではないんだと思い、問題についても「なんで問題なんだろう」と考える様になりました。また、世界は広いことをよく知りました。

今回の研修で学んだことは書いても書ききれないほどあります。この貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、将来に役立てます。英語の必要性も感じましたし、世界を知ること、問題について考えること、自分にできることをやりとげ、考えを発信すること。その他にもたくさんありました。個人的なことですが、オランダのチーズはおいしい、ってことでした。食べ物はとてもおいしかったです。自分が一番印象に残っているのは、初日のオニオンスープとイタリアのソーセージです。ある意味インパクトがあり、おいしいというのが理由でした。

今回、引率して下さった羽佐古さん、林田さん、太田先生、吉田さん、本当にありがとうございました。

◆西泊中学校2年 坂本 ころろ◆

私が現地研修を終えてわかったのは、英語力のなさでした。英語は、いたるところで聞きました。日本語の通じない国では、英語しか使えるものはありません。飛行機のアナウンスや博物館などの掲示、ホストファミリーの話していることなど、知らない単語はあるにせよ、大体のことは分かると思っていました。

ホストファミリーとの交流のため、例文リストを作りました。だけど、ホストファミリーは、文法通りの英語は話してくれません。私たちだって、普通にありうることです。

青少年交流事業では、1/3は聞き取れませんでした。オランダの同い年の子は、オランダ語と英語を話せます。私ももっと勉強しておけばよかったと思いました。

ですが、私は活きた英語を学びました。とても新鮮でした。私はもう一度オランダに行きたいです。



私の夢は医師になることなので、英語力が必要です。もっともっと勉強して、必ず医師になります！

今回の参加者も、みなとても大きな夢を持っていました。私は、自分の夢を言うのに躊躇してしまいがちです。心のどこかに、有言不実行にはなりたくない！という思いがあります。でも今回の研修からは堂々と言います。そして、みんなと同じレーンに立ちます。

今回の研修は、私にとって人間性を高めるいい機会だったと思います。実は、ある参加者の人とあまり仲良くなれませんでした。原因は、ある出来事がきっかけで、その人に不満を持ったことでした。相性というものがあるということは分かっていますが、自分から歩み寄ろうとはしませんでした。でも、もしその不満を相手に打ち明けていたら、仲良くなれたのかもしれない。私は反省しました。そのことをきっかけに、私は友達の見方を変えました。悪いところは見ずに、いいところを見つけようと思います。

私が成長した一番のところです。

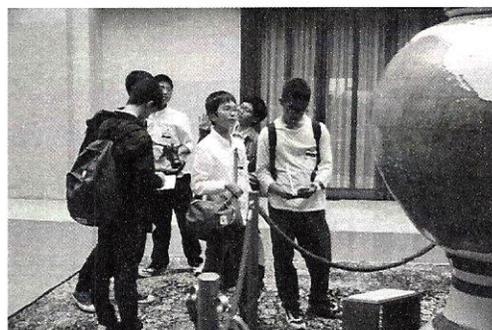
◆長崎大学附属中学校2年 銭坪 生真◆

僕がこの海外研修に参加して、自分が変わった所は大きく分けて2つあります。

1つ目は「何にでもチャレンジすること」です。ゆめ体験に応募した時は「他の国を見てみたい！」「国連に行ってみよう」などのやる気に満ち溢れていました。しかし、いざ研修に参加できるようになると、ワクワクして楽しみな気持ちと同時に不安も出てきました。複雑なモヤモヤしているものをずっと抱えていました。ところが、実際に現地に行ったら、その不安を吹き飛ばすくらい仲間が親切にしてくれました。僕は初めて触れる国際機関が醸すオーラなど全てが刺激となりました。そして、色々な事にチャレンジしてみたいと思えるようになりました。また、それが「楽しい」と思えました。僕の今までの人生の中で、とても重要な転機になったと思います。

2つ目は、「スピーチコンテストなどのイベントに積極的に参加しようと思いはじめたこと」です。研修前は、「多くの人前で何かを発表すること」が怖くて出来ませんでした。しかし、研修中ホストファミリーとの出会いで初対面の人との会話でも苦手意識が無くなっていき、国連での表敬訪問のスピーチを終えると、自分でも驚くほどに自信が出てきました。その後自ら現地の人との会話にチャレンジしたりして、自分でも英語力と自信がついてきているのを実感できました。日本に帰国後はそのような意見発表の場で英語を試して、力をもっとつけたいです。そんな驚くべき変化が起こった自分を嬉しく思います。

この海外研修で1番印象に残った所は国連でした。小さい頃から「国連はすごいところだから行ってみたい！」という夢を持っていました。その予想をはるかに超えたインパクトがあり、興味深かったです。「世界中の国が話し合う所ってすごいんだろうな」と曖昧だったイメージがくっきりとなりました。軍縮会議の傍聴をすると、



国の代表がそれぞれの意見を活発に交わしており、国連は国同士を結ぶ大きな橋のような役割を果たしていることを知りました。とても大きな収穫だったと思いました。

モンブランはただただ景色に圧倒されました。日本の山々とは異なる雄大さと切り立った岩肌の陰しさを間近で見れて本当に幸せでした。

今回、この事業の引率をしてくださった先生方本当にありがとうございました。

◆西浦上中学校2年 田上 愛規◆

私が一番学んだことは、「英語」の大切さです。今回私たちは、スイスやオランダに行きました。現地の方々は、2か国、3か国話すことは当たり前のような感じでした。日本は島国なのでこれまであまり外国の文化にはあまり触れてはきませんでした。しかし、これからは、そうはいきません。必ず、国際化の社会は大きくなります。だから、せめて英語は話せるべきです。英語が話せないということは、本当に不便で恥ずかしいことでした。今すぐにペラペラになるほどの無理はできませんが、少しずつ、授業に対する意識や国際社会、外国語への関心は高めていった方がいいと思います。私もこれから頑張っていきます！

2つ目は、文化の違いです。まず、靴を履いたまま、家に上がるというのを経験したことがありませんでした。とても不思議でした。次は食事です。主食は主に、パンやジャガイモ。それにハムや卵も加わっていました。お米も、日本のようにもっちりではなく、タイ米のパラッとした食感のお米でした。次はホテルです。ホテルでは「ヨーロッパ式」と言って、部屋が一つひとつデザインや広さ、シーツの色形、全てがオリジナルでできていました。ヨーロッパ式はいろいろなお部屋があるから、狭い部屋になったら嫌ですね。

3つ目は、ホストファミリーや現地の人々の温かさです。とても温かく、どんなことも笑顔で認めて、共感してくれました。それに、ホストファミリーと過ごす時間がどれだけ濃密だったか。いろんなところに連れて行ってもらったし、たくさん提案もしてくれました。だから、とても楽しかったです。こんな経験を本当にみなさんにもしてもらいたいなあと心から思っています。しかも、私はこのゆめ体験で、“一生の友達”と思える友をつくることもできました。

多くのことを学び、多くのことを得るこの研修は、とても素晴らしいものだと感じています。私の夢の形も、少しずつですが、大きくなっています。本当にゆめ体験は、夢のような時間の旅でした。



◆長崎東中学校2年 東原 拓哉◆

僕が、この研修で第一に印象に残っていることは、何よりもまず、海外で現地の方と直接話したり、文化に触れたことです。例えば、機内での会話や、現地の方との交流、

そして、3日間のホームステイです。実際に触れてみて、自分が思っていたことと、こんなにも違うのかということを知りました。

気づいたことは、まず、意外と自分の話すことが通じるということです。今使える少しの文法だけでもほとんど話すことはできました。確かに、話していてこういう部分でもっと新しい文法を知っていたら分かりやすくだろうなと思ったことはありましたが、違う表現やそれと似た表現に置き換えることで十分話すことはできました。

次に気付いたことは、聞き取る際には「単語」を聞き取るように心がけることが大切だということです。これは、人それぞれだとは思いますが、僕の場合、今の英語のレベルで全文を聞き取ることは無理がありました。最初、これに気づいたのは、ホームステイの時でした。ホームステイがこの研修で現地の人と本格的に長時間英語で会話した初めての機会でした。ホストファミリーが英語でいろいろ話しかけてくださるのですが、向こうの人は母国語並みに話し慣れているので、次から次にすらすらと話されます。そのため、最初は聞き取ることができませんでした。理解できないのであいまいな返事しかできません。このままではと思って、自分なりに考えました。その結果、この答えが出ました。それを実践してみると、驚くほど通用しました。今まで解らなかったことが一気に解るようになり、相手の話したことに対して、相槌だけではなくて、自分からもさらに話を追加できて、会話が今まで以上に発展することができました。相手の話すことが解るだけでこんなに会話が楽しくなるのかと思いました。そして、ホームステイの後半から、少しずつ会話ができるようになり、最後は店員に自分からお願いしたりすることが少しだけできるようになりました。英語が少しでも使えるようになったことは自分の中では最大の進歩です。海外に行って本当に良かったと思いました。

今後は、日本でも向こうで学んだこれらのことをしっかり実践していきたいです。例えば、週に1回あるオールラウンドコミュニケーションの授業では現地での経験を生かして、ALTの話すことがどこまで解るか、挑戦してみたいです。また、機会があるときは積極的にALTに話しかけてみたいと思います。

さらに、違うと気づいたことが、文化の違いです。現地で初めて会った人が、初対面にもかかわらず自分から、握手を求めてきてくれます。これには、すごく驚きました。この研修では、オランダ、スイス・ジュネーブ、そして、フランス・シャモニーに行きましたが、景観も日本とは全然違いました。この中で滞在期間が最も長かったオランダは、まず、「道路」が違いました。日本のように黒いアスファルト状ではなく赤いタイル状の道が街中にありました。また、道の脇には、古くて、隣同士ぎっしりくっついた建物が並んでいました。まさに、ハウステンボスのような風景そのものがオランダの町並みでした。

そして、街の雰囲気ですが、これもハウステンボスのような、クラシックで落ち着いて静かな感じでした。オランダの人は強烈に明るいものを嫌う習性があるということで、LEDはほとんど見られませんでした。代わりに街灯などは日本のトンネルにあるようなオレンジのライトが使われており、それもまた、オランダの街並みを落ち着かせているようでした。

異文化に触れたことによって、日本では気づくことのできないことに気づけることができて、自分の視野が広がったと思います。

この研修では、様々な文化に自由に触れることができました。そのおかげで、肌でよ

り多くのことを吸収することができました。これは、自分たちにできるだけ縛りのなく、自ら進んで行動できるように色々と配慮して下さった、同行していただいた国際課の方々や、引率の先生のおかげだと思います。本当にありがとうございました。また、この研修で楽しく活動できたのは一緒に行った周りのみんなのおかげです。このメンバーで行けたことは自分にとってすごく幸せだったと思います。この研修に参加できて本当に良かったです。

また、向こうで学んだことをしっかり今後にも生かしていきたいと思います。この歳にこのような経験ができたことは、自分の人生にとって、すごく大きなプラスになったと思います。将来に向けて、この経験を活かし、今まで以上に努力していきたいです。



◆西浦上中学校 2年 松尾 花◆

今回の旅行で私は、日本にいたときとは違う日本の形を見ることができました。オランダ、スイスで感じたことは、自己責任の多い国だということです。オランダでは、自転車と人がぶつかったら人の責任になるし、シートベルトを締めていなかったら運転する人ではなくその本人の責任になるそうです。吉田さんから「保障はないよ」「自分の責任だからね」というような言葉をよく聞きました。日本では何かあっても自分の責任になることはこれほど多くはないのにと感じました。

でも、逆に考えれば、日本はしっかり守られすぎていて自由が少ない、でもオランダなどでは責任を問われることが多い分、何があっても自分のせいだからと自由に行動できる部分が多いのではないかと思います。私の学校の社会の先生は、「外国は法律しかないけど、日本は世間の上に法律がある」という話をよくします。それを自分で体感できて、やはり日本は安全ではあるけれども自由が少ないのかもしれないと思いました。それは武士の時代から続く日本の特徴なのだろうと思います。日本にいる時、そんな社会当たり前だと思っていたけど、オランダとスイスの社会を見ると、日本の形を新鮮に感じました。オランダとスイスに研修に行き行って感じたのが、日本のことというのは不思議ですが、自分が住む国のことを違う角度から見ることで嬉しかったです。応募するときの作文に、「中国の修学旅行生と同じように先入観をなくして国と人を見てみたい」と書きましたが、外国の人を知ることで日本のことを知ることができると分かりました。

あと、オランダとスイスでは、母国語の他に、3か国、4か国と喋れる人が多くいて、本当にすごいなと思いました。オランダの人はほとんどみんな英語ペラペラだったし、スイス人の人は公用語が4つあるだけあって、フランス語も堪能で、尊敬します。さすが陸続きのヨーロッパと思いました。日本は海に囲まれていることもあり、英語もみんな



ながら話せるわけではありません。やはり英語はコミュニケーションをとるうえでとても重要だと思います。言葉が分からないと、世界の人とコミュニケーションがとれないからです。私は、学校の授業でも英語を頑張っていかなけれ

ばいけないなと思いました。いつかまた、外国へ行く機会があれば、ぜひ、その国の言葉でコミュニケーションをとれるようになっていきたいです。今回の旅行は、これから生活していく上で必要なことと、日本と他の国の違い、日本のよさなどを学ぶことができ、私のなかでとても実りあるものになったと思います。

◆青雲中学校2年 劉 大地◆

僕は、この7泊9日の長崎市ゆめ体験を通し、様々なことを見て学び、感じ、そして体験することが出来ました。

僕が今回学びたいと思っていたことは、語学はもちろん日本との文化の違いです。まず僕が驚いたことは、外国人は背がとても高いということです。そして、その影響でトイレの便座が高かったりと驚きの連続でした。

2日目はシーボルトハウスに行ったりと、オランダの歴史や日本とのつながりを知ることができて、とても勉強になりました。

そして、待ちに待ったホームステイ。琢武くんとで、最初はどうも言葉は通じるのかなど、心配していたけど、ホストファミリーはとても日本語が上手で安心しました。子ども2人と日本のお土産で遊んだり、サッカーやゲームをして触れ合いました。たくさんの良い思い出ができ、とても幸せな3泊4日でした。

5日目はオランダからスイスに行きました。佐野大使への挨拶文では緊張したけど、失敗せずに言えたので良かったです。日本政府代表部の方たちの話は、とても役に立ちました。

6日目は様々な国際機関を訪問しました。そこで活躍する日本人の姿を見て、とても感動しました。

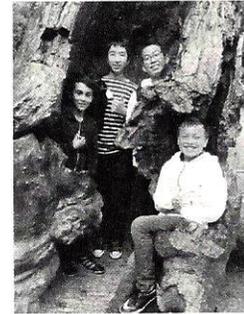
僕は今回、たくさん話を聞くことができ、見聞を広めることができました。人の命を救うとはどういうことなのか、これを知ることが出来たことは、僕の将来に必ず役に立つと思います。

今回のゆめ体験では、文法通りに話しても伝わらなかつたりと言葉の壁を感じました。なので、ホストファミリーの方とLINEを交換しました。これを通して、語学を極めていきたいと思います。

今、僕は自分の家で感想文を書いているけど、楽しい思い出が呼び起されて、オランダに戻りたいです。けれど、今は無理なので、いつか絶対に行こうと思っています。そのためには、今はとにかく死にもの狂いで勉強しようと思います。

今回は良い友達もできました。

本当に市役所の方、太田先生、新子さん、ありがとうございました。



◆長崎大学附属中学校2年 渡部 真衣◆

ライデン市。見たことない街並み。ドキドキワクワクしました。

まず向かったのは、ライデン市役所。オランダの歴史を開きました。また、ライデンのシンボルの鍵は、天国への鍵を意味していることを学びました。次のシーボルトハウスでは、日本のものがたくさんありました。動物は絵に描いて保存してありました。シーボルトは、色を残すために絵に描いたことを学びました。

国立民族学博物館。展示物はデラックスでした。出島は「DESHIMA」だったり、貿易の品物もたくさんありました。青少年の交流事業では、日本語を使わずしりとりしたり、楽しく過ごしました。スタンプラリーを協力して行い、仲良くなれました。

ホストファミリーとの生活は、英語とジェスチャーで、渋谷さんと協力し、生活しました。風車、オランダの歴代王の像、王宮やピースパレスなど、たくさん連れて行ってもらいました。真珠の少女を生で見ました。ビーチにも行って気持ち良かったです。とても楽しくいい思い出でした。

ホストファミリーとお別れし、国連へ行きました。平和な世界にするためにいろいろな策を考えられてました。軍縮会議日本政府代表部の佐野大使からは、核をなくすよう呼びかけているが、他の国が持っているから我国だけ捨てれないなど言われたり、いろいろ問題はあるが訴え続けなければならないと学びました。

赤十字の展示室では、現実をつきつけられたようでした。貧困で苦しんでいる子どもの写真の目から訴えてくるような感じでした。救わなくちゃ、そう思いました。

国連難民高等弁務官事務所の方の話の「この仕事はなくなるといけない」という言葉にハッとされました。心にささりました。

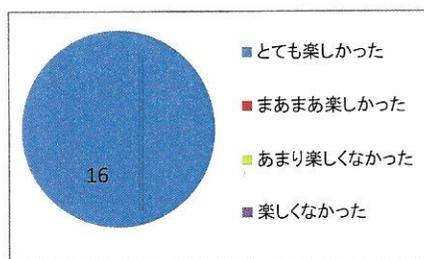
この研修で、みんなと楽しみながらいろんなことを学び、考えました。この体験は、私の宝です。



<平成28年度子どもゆめ体験アンケート（直後）結果>

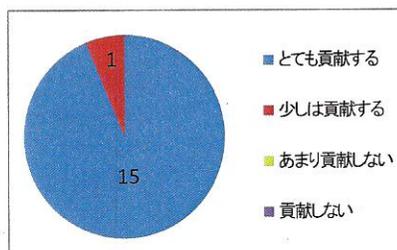
Q 1：今回の研修旅行全体を通してのあなたの感想は？

とても楽しかった	16
まあまあ楽しかった	0
あまり楽しくなかった	0
楽しくなかった	0



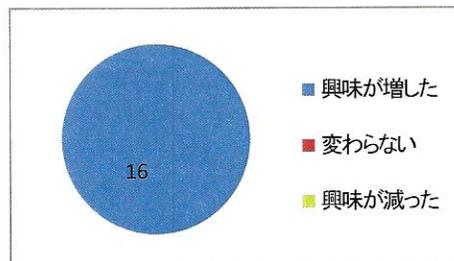
Q 2：今回の研修旅行は、あなたの夢の実現に貢献すると思うか？

とても貢献する	15
少しは貢献する	1
あまり貢献しない	0
貢献しない	0



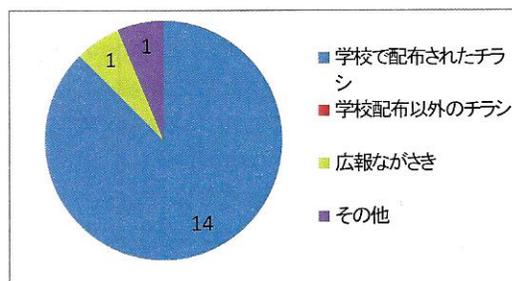
Q 3：研修旅行後、国際交流に対してのあなたの興味は？

興味が増した	16
変わらない	0
興味が減った	0



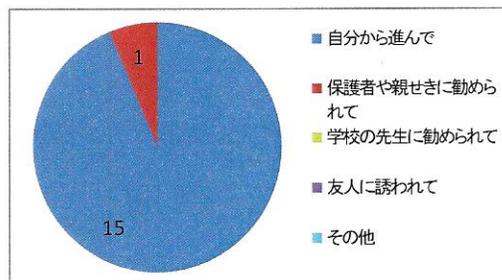
Q 4：この事業をどのようにして知りましたか？

学校で配布されたチラシ	14
学校配布以外のチラシ	0
広報ながさき	1
その他	1



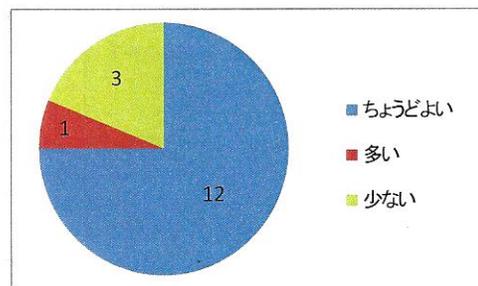
Q 5：この事業に参加してみようと思った動機は？

自分から進んで	15
保護者や親せきに勧められて	1
学校の先生に勧められて	0
友人に誘われて	0
その他	0



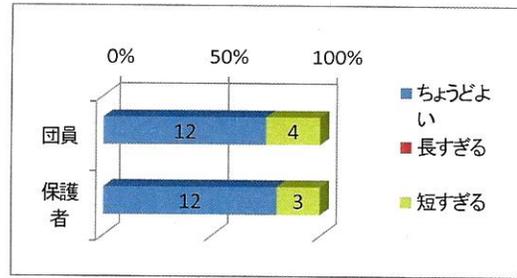
Q 6：事前研修は3回でしたが、どうでしたか？

ちょうどよい	12
多い	1
少ない	3



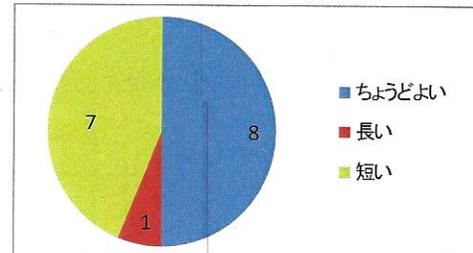
Q7：7泊9日の日程はどうでしたか？

	団員	保護者
ちょうどよい	12	12
長すぎる	0	0
短すぎる	4	3

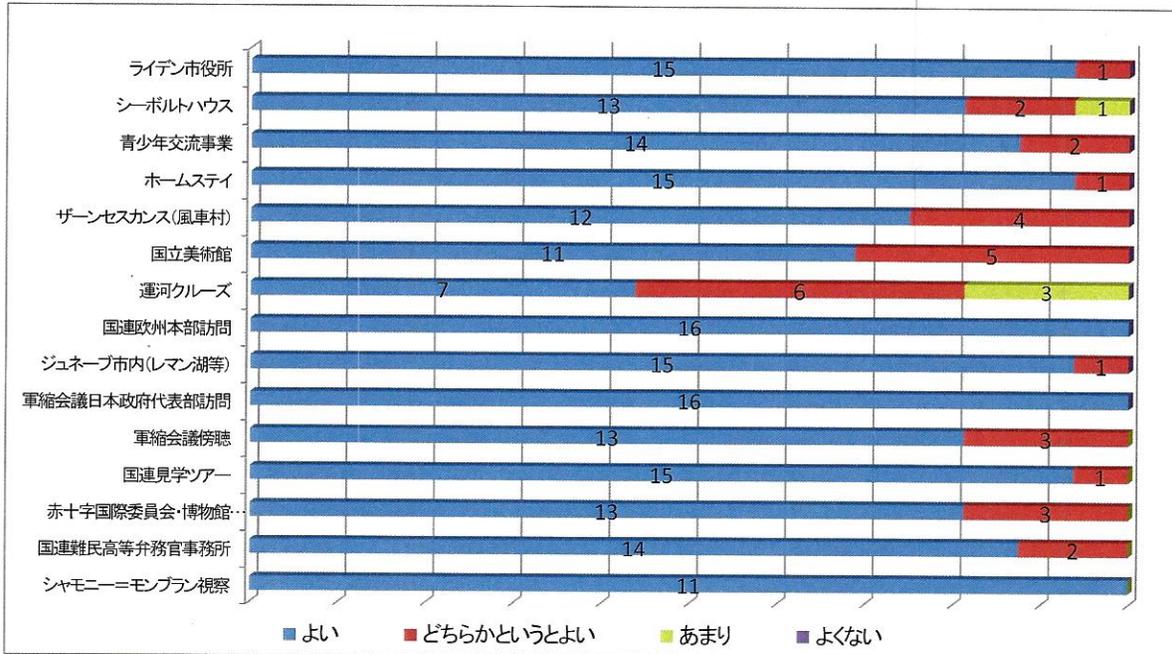


Q8：ホームステイは3泊でしたが、どうでしたか？

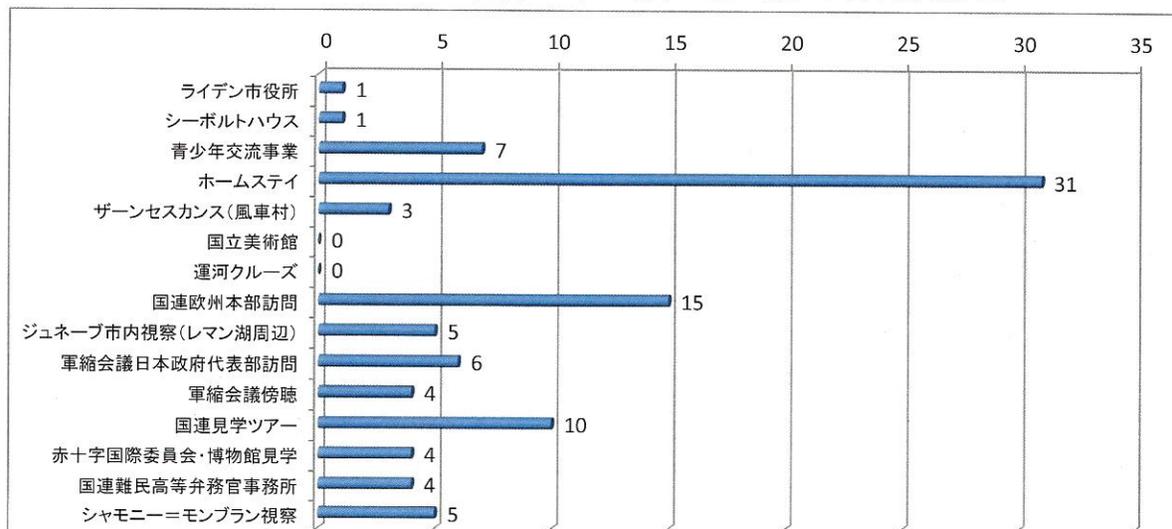
ちょうどよい	8
長い	1
短い	7



Q9：次の各訪問先について、
4：とてもよい、3：どちらかというといよい、2：あまりよくない、1：よくない
の4段階で回答してください



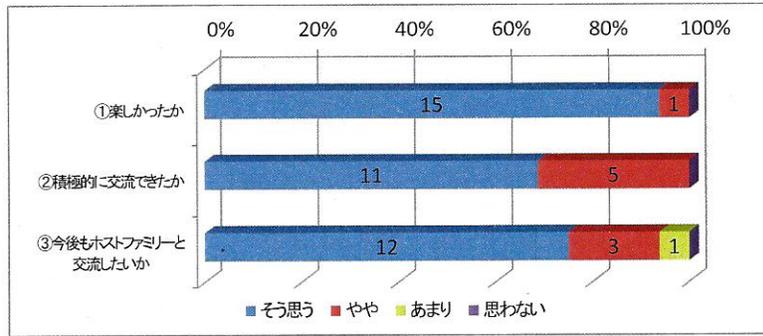
Q10：訪問先場所ベスト3は？（3つ選択で1位3点、2位2点、3位1点で算出）



Q 1 1 : ホームステイについて

4 : そう思う、3 : ややそう思う、2 : あまり思わない、1 : 思わない
の4段階で回答してください

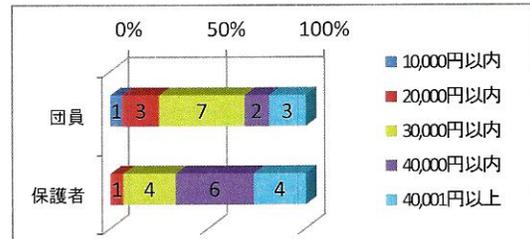
- ①楽しかったか
- ②積極的に交流できたか
- ③今後もホストファミリーと交流したいか



Q 1 2 : お小遣いをいくら使ったか? (団員回答)、妥当だと思うお小遣いの金額は? (保護者回答)

- 10,000円以内
- 20,000円以内
- 30,000円以内
- 40,000円以内
- 40,001円以上

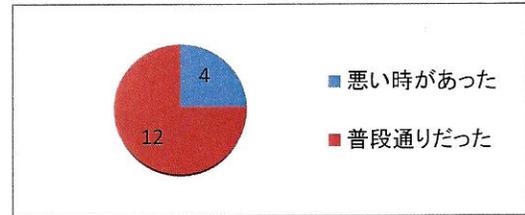
	団員	保護者
10,000円以内	1	0
20,000円以内	3	1
30,000円以内	7	4
40,000円以内	2	6
40,001円以上	3	4



Q 1 3 : 現地研修中の体調は?

- 悪い時があった
- 普段通りだった

悪い時があった	4
普段通りだった	12



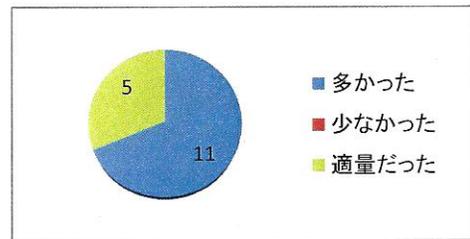
<具体的な症状>

- ・吐き気 (ホストファミリーとの別れから、悲しみのあまり!)
- ・腹痛

Q 1 4 : 食事の量はどうでしたか?

- 多かった
- 少なかった
- 適量だった

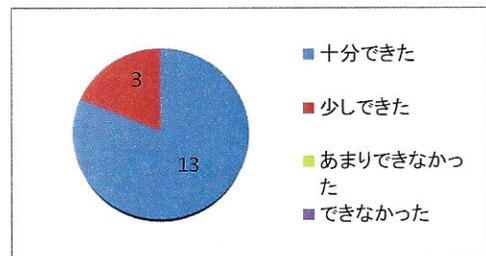
多かった	11
少なかった	0
適量だった	5



Q 1 5 : 事前研修、現地研修をとおして協調性や自主性を養うことができたか?

- 十分できた
- 少しできた
- あまりできなかった
- できなかった

十分できた	13
少しできた	3
あまりできなかった	0
できなかった	0



Q16：今後学校行事等でリーダーとして参加したいか？

ぜひ参加したい	14
参加してみたい	2
あまり参加したくない	0
参加したくない	0



<具体的な内容>

- ・英語の事業があれば、ぜひ参加したい。
- ・例えば、学校で何かリーダー決めなどがあつた場合、小さな事かもしれませんが、自らリーダーになります。責任感もちます。
- ・人前に立って何かを発言するなど注目を集められる場所
- ・あじさいEnglishコンテスト
- ・平和委員会や高校生平和大使など
- ・高校で国際科に入りたいと改めて思った
- ・「長崎が若者に住みやすい町」にするための企画など
- ・海外を見たくて長崎というまちをどうよくしていくかを考えるなど
- ・青雲ラリー、青雲祭
- ・海外の人との交流会等
- ・生徒会が学級委員になりたい
- ・みんなに写真をたくさん見せて、学んだことを伝えること
- ・高校生平和大使や青少年交換留学生などのような国際的な交流を行う事業

Q17：現地研修後のお子様の様子は？

(体調面)

普段と変わらなかった	3
最初疲れていた	9
体調を崩した	2
その他(時差ボケ)	1

(会話)

楽しい思い出を話す	15
きつい思い出を話す	0
あまり話さない	0

Q18：これまでに比べお子様の言動に変化が見られるか？

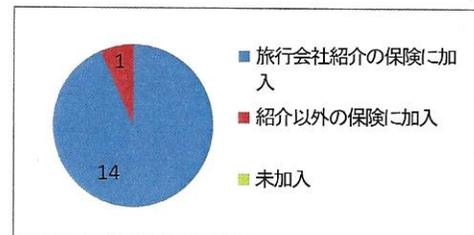
変化が見られる	15
変化は見られない	0

<具体的な変化>

- ・国際機関への興味が一段と深まったように思う
- ・自分自身の個性を大切にようになった
- ・他人からの評価ばかりでなく、自分の心で感じて行動することにためらわなくなった
- ・将来海外へ行きたい！国際的な仕事がしたい！オランダへ帰りたいと話すようになった
- ・世界へ目が向くようになった
- ・将来の夢を話すようになった
- ・日常会話を英語を使って話そうとする
- ・英語を含む語学習得の必要性を強く意識するようになった
- ・外国の文化(日本との違い)に興味をより持つようになった
- ・留学や世界の話をよくするようになった
- ・また是非海外に行ってみたいと話す
- ・新聞の記事やニュースについての関心が増えたように思う
- ・将来の夢や就きたい仕事に変化が見られた
- ・高校生平和大使への参加について話すようになった
- ・以前から国際的な仕事に興味を持っていたが、もっとはっきり具体的な目標ができたようである

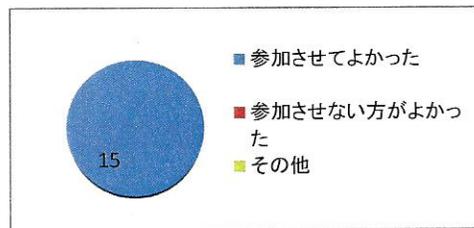
Q19：今回の旅行に際して、任意保険に加入したか？

旅行会社紹介の保険に加入	14
紹介以外の保険に加入	1
未加入	0



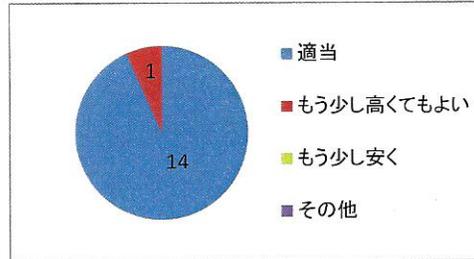
Q20：今回の研修旅行への参加について（保護者回答）

参加させてよかった	15
参加させない方がよかった	0
その他	0



Q21：参加者負担金（6万円）について（保護者回答）

適当	14
もう少し高くてもよい	1
もう少し安く	0
その他	0



Q22：現地研修の情報提供をフェイスブックで行いましたがどうでしたか？（保護者回答）

フェイスブックを見た	15
フェイスブックを見ていない	0

見た場合、内容はどうでしたか？

もっと詳しくしてほしい	0
適当である	15
必要ない	0

<保護者意見等>

- ・子どもにとってすごくいい経験ができ、参加させてよかった。今後も継続して欲しい
- ・市の事業ということで、安心して参加させることができた
- ・旅行では決して行かないような場所に連れて行っていただき、中学生の子どもたちにとって大変刺激になったと思う
- ・帰国後も研修やイベントへの参加があることで、振り返りができて良いと思う
- ・フェイスブックに随時旅の様子をアップしていただき、家族一緒に時間を共有している気持ちを味わうことが出来た
- ・引率の先生がノートにたくさんコメントを書いていたのを見て、丁寧にいただいていることがよく分かりました
- ・この事業に参加した子供たちは、国際感覚を磨き、長崎にとって、もしかしたら日本にとって有益な社会人になっていく、と研修内容を見て思いました
- ・税金の有効な使い方だと、市民としても思いました
- ・選考方法から事前研修、事後研修まで素晴らしい事業だと思う
- ・世界の事を身近に感じて、興味を持ったと同時に、故郷・長崎の良さを再確認できたようです。中学生の多感な年ごろに世界に触れることの意義を強く感じています。このような事業が今後も続いて行くことを望みます
- ・長崎市は姉妹都市や友好都市がたくさんあるので、その存在を広く市民の皆様に認知してもらうことで、国際人を作る手助けになると思います

-あとかぎ-

ゆめ体験に参加しての感想（引率職員）

◆長崎市国際課 係長 羽佐古 潤二郎◆

子どもゆめ体験事業がスタートしてから5年が経ちましたが、この事業をやっているよかったですと思える瞬間があります。

ひとつは、渡航先でみなさんのいきいきとした姿に出会えたとき。もうひとつは、後日、みなさんが何かに取り組み、充実しているということを見たり、聞いたりしたときです。

たとえば、留学して自ら海外とつながった人、被爆地の若者代表として高校生平和大使になった人、黒焦げになってスポーツに打ち込んでいる人、やりたかった吹奏楽に夢中になっている人。

別にグローバルな話題じゃなくても、どんなことでも嬉しくなります。

それは、みなさんが、本当にたくさんの可能性に満ちていて、そのかけらのひとつを見つけたのだと思えるからです。

オランダやスイス、おまけのフランスで、中学生16人と引率4人の20人で過ごした夏が、みなさんの未来へのきっかけのひとつとなってくれることを楽しみにしています。



◆長崎市立横尾中学校 英語教諭 太田 晶子◆

私はゆめ体験に参加して、長崎の将来は明るいものだと確信しました。参加した中学生の皆さんはそれぞれがとても前向きで、大変すばらしい方々でした。そして旅が終わりに近づくにつれ、素晴らしいチームとしてのまとまりを見せてくれました。

参加した中学生の皆さん。

ライデンではオランダと長崎の縁の深さに触れ、鎖国以降の歴史に興味を持ってシーボルトハウスを見学する様子が印象に残っています。また、ホームステイではホストファミリーと文字通り「家族」になることができました。空港で別れを惜しむ姿に、私ももらい泣きしてしまいました。

ジュネーブでは国連や赤十字、国連難民高等弁務官事務所を視察する際、国際的な機関でさまざまな方にお会いし、自分たちの将来の姿と重ねて積極的に質問をしていま

した。また、軍縮会議を傍聴するなどの経験を通して、将来の活躍の舞台を海外にしたいと帰りの飛行機の中で熱く語る様子に頼もしさを感じました。

旅の後半、アムステルダム空港でなかなか荷物が出てこない友達のために、手荷物受取所のベルトコンベアをみんなで見守り、見つかったときにはみんなで喜ぶ姿を見て、お互いに支え合う優しさと温かさに胸が熱くなりました。

皆さんが長崎で、そして世界で、将来リーダーシップを発揮し、長崎と世界をつなぐ存在になっていくことを期待しています。

ここで得た素晴らしい経験がこれからの皆さんの夢を実現する、大きな一歩につながりますように。

一生忘れられない夏になりました。ありがとうございます。



◆長崎市国際課 林田 聖大◆

個人的なことですが、私にとってこの「子どもゆめ体験事業」は、4月の人事異動で国際課に配属され、初めての出逢う事業であるとともに、海外に行くことも初めてのことでした。旅行会社や国連などの訪問先との調整や自身の出張の準備など、初めてのことばかりで苦労することも多くありました。

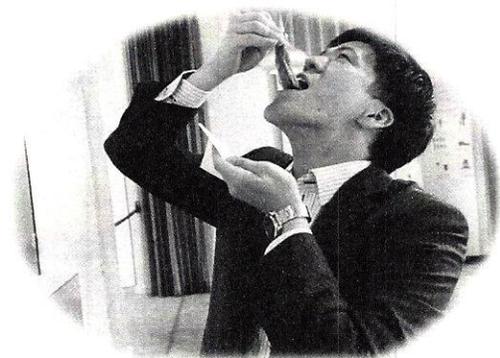
しかしながら、参加者の選考から結団式に始まり、成果発表までの全行程を終えて感じるのは、この事業に携わることができ、皆に出会えることが出来たことが本当に幸せだということです。もちろん参加者の皆さんに海外の文化を肌で感じてもらうことがこの事業の目的ですが、一番得をしているのは自分じゃないかな？と密かに思っています。

約半年間にわたるゆめ体験の思い出は、私の人生において、とても大切に印象深い思い出となりました。このゆめ体験を経た皆さんが、今後バリバリと活躍されることを楽しみにしています。

最後に、この報告集を作成するに当たり、これまで自分で撮影してきた写真の中から選別する作業を行ったのですが、自分の写真撮影の技術の低さを悔いました。。皆が素敵な表情をしているのに、暗い・ピントが合

っていないなどの理由で掲載を断念した写真が山のようにあります。人によって掲載回数に偏りがあったり、気に食わない写真があったりするかもしれませんが、寛大な心でご覧いただけると幸いです。

この報告集を何年後かに手に取って「懐かしいなあ」と思ってもらえることを願っています。



おまけ ~ちょこっとオランダ語~

オランダ	Nederland / Holland ネイデルランド / ホランド
こんにちは	Goede middag / Hallo フーデミッドダグ / ハロ
どうぞ/お願いします	Alstublieft アルストウブリフト
ありがとうございます	Dank u wel ダンクーウェル
ごめんなさい	Sorry ソリー
さようなら/バイバイ	Tot ziens / Doei トット ジーンズ / ドウイ
大丈夫です	Het is goed/OK ヘット イス グット/オーケー
私は○○○○です	Ik heet ○○○○ イック ヘイト ○○○○
Nice to meet you お会いできてうれしいです	Aangenaam kennis te maken アーンゲナーム ケニス テ マーケン
○○歳です	Ik ben ○○ jaar イック ベン ○○ ヤー
名前は何ですか (*正式な尊敬語ではない)	Hoe heet je? フー ヘイト イェ?
はい / いいえ	Ja / Nee ヤ / ネイ
○○が好きです	Ik hou van イック ハウ ファン ○○
私の趣味は○○です	Mijn hobby is ○○ マイン ホビー イス ○○

